

巻 頭 言

院長 小 熊 豊

平成13年は輝かしい21世紀の幕開けの年と期待されましたが、世界的に経済不況が進行し、忌まわしい様々な事件、問題に振り回された一年でした。

我が国でも聖域なき構造改革の旗の下、国民に多大の負担と痛みを強いる政策が決定され、実行に移されようとしています。今までのやり方では、この先、我が国が成り立たなくなることは理解できても、これで良いのだろうかという疑念がふと湧きあがるのも、偽らざる心境ではないでしょうか。

医療の分野では、ポストゲノムの時代、再生医療の幕開けの時代と言われ、様々な知見や技術に基づき、新たな先端医療の展開が図られる一方、医療事故やトラブルが相次ぎ、経済的、質的、制度的変革が重なって、大きな混乱と苦悩が招来されています。

砂川市立病院でも常に変革が求められ、より良き医療への模索がとどまることなく続けられています。

そうした中、ここに砂川市立病院医学雑誌第19巻が刊行される運びとなりました。これは昨年1年間の関係各位の汗と努力の結晶であり、貴重な症例、業績の発表の一端であります。皆さんの日夜をわかたぬ御労苦に、深甚の謝意を表したいと思えます。

これからの地域医療は、地域に根ざし、地域のニーズに適応した医療であるべきで、患者様主体の、個別性の尊重された医療を目指すべきと考えます。折りしも当院は、新病院建設の時期にさしかかろうとしております。現実を見据え、大いに今後を展望し、地域の方々に望まれる医療を実践する病院に更なる変貌を遂げようではありませんか。

